

暴風と高波に伴う農林水産業用施設及び農作物等の管理対策

平成30年 2月28日

新潟県農林水産部

新潟地方気象台が2月28日5時52分に発表した「暴風と高波に関する新潟県気象情報 第2号」によると、前線を伴った低気圧が日本海を発達しながら北東に進むため、県内では3月1日にかけて非常に強い風が吹く見込みです。

また、1日は気温が高く、積雪の多いところでは、なだれや雪解けによる低地の浸水、河川の増水に注意が必要です。

今後の気象情報に注意し、これらに対する事前・事後対策を徹底してください。

なお、暴風時は、屋内に待機し人身事故防止に十分ご注意ください。

1 水稲

【事前対策】

- (1) 非常に強い風が吹くことが予想されるので、育苗ハウスのビニール張りを予定している場合は、延期する。また、暴風対策が行われていない育苗ハウスは、ビニールを除去する。
- (2) 暴風対策が行われている育苗ハウスは、防風網やマイカー線の点検や補強を行う。

【事後対策】

強風によって破損した育苗ハウスのビニールシートは補修してかけ直す。

2 園芸全般

【事前対策】

- (1) ハウスやトンネル・防風網の破損部分やたるみを直し、金具や支線の腐蝕箇所などを事前に点検補強する。
- (2) 強風時は原則としてハウスを閉め切るが、高温になる場合はハウスの風下側を開け短時間換気する。強風後も急激な温度変化がないよう注意して換気する。

【事後対策】

- (1) ハウスやトンネルのビニールの破損及び緩みがある場合は、速やかに補修する。
- (2) 強風で茎葉などが損傷した場合は、速やかに殺菌剤散布を行い、病原菌の感染を予防する。

3 野菜

【事前対策】

- (1) 砂丘地で飛砂の恐れがある場合、あらかじめスプリンクラーによるかん水等で砂を湿らせておく。
- (2) ベたかけ資材の抑えを補強する。そらまめは、再度ワリフ等を被覆する。

【事後対策】

べたかけ資材が破損や飛散した場合は、かけ直す。

4 果樹

【事前対策】

防風施設を点検し、破損している箇所は早急に補修する。

【事後対策】

倒伏した場合は樹体を引き起こして支柱で固定する。また、主枝・亜主枝の裂壊や損傷が発生した場合は、損傷箇所を切り直して保護剤を塗布する。

5 畜産

【事前対策】

- (1) あらかじめ停電や断水等の対応を確認し、被災時には自家発電機による搾乳や生乳冷却、ウインドレス畜舎の換気等について、早急に対応できるよう準備、点検を行う。
- (2) 畜舎の破損を防ぐため窓や扉等は確実に閉じるとともに、必要に応じて補強する。特にハウス畜舎等簡易な施設は、風の被害を受けやすいため、補強を確実に行う。
- (3) 畜舎への雨水の浸水を防ぐとともに、配合飼料・乾草等は、濡れて変敗しないよう、安全な場所に移動する。

【事後対策】

- (1) 停電があった場合は、復旧後速やかに関連機器の作動点検を行う。
- (2) 施設等の破損があった場合は、必要に応じて家畜を安全な場所に移動させる。また、速やかに修繕をし、家畜の安全な飼養環境を確保する。
- (3) 畜舎の破損により雨水等の浸水があった場合は、速やかに畜舎、設備器具の水洗、乾燥、消毒を行う。特に、搾乳機器は十分な点検を行い、消毒等の衛生対策を徹底する。

6 漁業全般

【事前対策】

- (1) 出港前に確実に気象情報等を確認し、荒天が予想される時は出港を中止する。
- (2) 早めの情報入手を心掛け、以後の航海計画・出港予定を見直す。
- (3) 波や風の急変に注意するとともに、発達した積乱雲等に近づかないようにし、早めの帰港を心掛ける。
- (4) 漁具や飼育池等の管理に十分注意し、厳重に警戒する。

【事後対策】

係留している漁船、漁具や飼育池等を確認する際は、安全を十分確保してから実施する。

7 きのこと

【事前対策】

- (1) 施設（ハウス、雨よけなど）の点検を十分に行い、損壊、倒壊等が生じないように保護・補修に努める。

(2) 屋外に保管してある資材類（おが粉等）が飛散しないよう、被覆などの適切な管理を行う。移動が可能な場合は屋内に移動させる。

【事後対策】

被害状況に応じた適切な修繕を行い、施設等の速やかな復旧に努める。また、修繕は十分に安全を確保してから実施する。